病院名	岩手県立胆沢病院
研修科目名	皮膚科

◇　研修目的

皮膚科学的な診察方法、皮膚症状の記載学、皮膚疾患の重症度の判定（特に専門医への紹介の必要性）、皮膚病理学の基礎の習得を通して、EBMを考慮した診療技術の体得を目指す。診断、治療については、一般臨床医でも経験する頻度の多い疾患を中心とするものの、研修期間中に経験し得た専門的な疾患に付いては詳細な検討を求める。皮膚科患者のQOLを低下させる病態、病状を理解し、指導医、コメディカル等と協力の上、それらの問題の解決法を検討する。小型の皮膚腫瘍の切除に対処できる程度の皮膚外科的な技術を習得する。

◇　ＧＩＯ（一般目標）

一般臨床医に必要な皮膚科および皮膚外科の診断、治療技術を習得する。すなわち、頻度の高い皮膚疾患の診断、治療、皮膚科医へ紹介すべき重症な病態の理解、小手術等について短期間の研修を行なう。

◇　ＳＢＯs（個別行動目標）

１．皮膚疾患の診断に必要な病歴を聴取し、記載することができる。　（知識・想起）
２．皮膚病変を発疹学に従い、正しく記載することができる。　（知識・想起）
３．皮膚疾患の診断に必要な検査（直接鏡検、ﾊﾟｯﾁﾃｽﾄ、Dermoscopy、皮膚生検等）を選択し、実施することができる。　（知識・解釈・問題解決）
４．頻度の多い皮膚疾患、救急外来で経験することの多い皮膚疾患（蕁麻疹、熱傷、感染症等）について、診断・治療を行うことができる。　（知識・問題解決・技能）
５．頻度の多い皮膚腫瘍について鑑別診断を述べることができる。　（知識・想起）
６．皮膚科入院患者に対し、適切な軟膏処置、包帯法等を施行できる。　（技能）
７．褥瘡の予防、治療のために主治医として留意すべき事項を理解し、適切に対処を行うことができる。　（知識・解釈・技能）
８．小腫瘍の切除、縫合を行うことができる（デザイン、局所麻酔を含む）。　（技能）
９．興味のある症例についてレポート作成あるいは学会発表を行なう。　（技能）

◇　研修方略

LS	方 法	該当SBOs	対象	場 所	媒 体	人的資源	時間	学習時期
1	外来研修	1.3.4 5.9	指導医 研修医	皮膚科外来	カルテ	指導医 研修医	外来時間	毎日
2	病棟研修	2～4 6.7.9	指導医 研修医	病棟	臨床研修 実技	指導医 研修医	3時間	毎日病棟回診時
3	外来手術	3.8	指導医 研修医	外来手術場	臨床研修 実技	指導医 研修医	1時間	月火水金午後
4	入院手術	8.9	指導医 研修医	中央手術場	臨床研修 実技	指導医 研修医	2時間	木曜午後
5	新患検討	1～3 5～7	指導医 研修医	皮膚科外来	カルテ	指導医 研修医	1時間	毎日夕方
6	スライド検討	2.5.9	指導医 研修医	皮膚科外来	臨床ｽﾗｲﾄﾞ 病理ﾌﾟﾚﾊﾟﾗｰﾄ	指導医 研修医	1時間	月火金
7	褥瘡回診	7	指導医 研修医	全病棟	褥瘡名簿	褥瘡対策チーム 研修医	2時間	毎週水曜3時半～

◇　研修評価

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
1～8	形成的	知識・技能	指導医 看護師	研修中	観察記録
9	形成的	知識・態度	指導医	研修後	レポート

◇　週間予定表

	月	火	水	木	金
午前	外来診療 病棟回診				
昼	外来会議		病棟会議		
午後	外来診療 小手術 ベッド診	外来診療 小手術	手術	褥瘡回診	外来診療 小手術 ベッド診
夕方	夕回診 新患検討 スライド検討		夕回診 新患検討		夕回診 新患検討 ｽﾗｲﾄﾞ検討

◇　研修内容と方法

皮膚科の研修を通じて、研修医は、指導医とともに外来・病棟診療を行う。外来診療においては、問診、検査の施行とともに、指導医の述べる皮膚所見をカルテへ記載することにより、皮膚病変の記載学を学習する。診断へ至るための検査の選択、鑑別方法、治療の選択、患者さんへの説明方法を経験する。病棟においては、入院カルテの作成を通して、患者の病状の把握、検査、治療の組み立てを学ぶ。また、検査結果や治療効果について指導医とともに評価し、治療方針の再考を行う。病棟回診を指導医とともに行い、一般的な外用処置、包帯法皮膚科処置等を経験する。

◇平成26年度指導責任者及び指導医

皮膚科指導責任者：　塚田　全